奈良県吉野町

史跡宮滝遺跡の整備がはじまります

～吉野万葉整備活用事業紹介リーフレット～

写真：史跡宮滝遺跡付近の吉野川の様子

吉野万葉整備活用事業の理念

宮滝遺跡は、縄文時代から弥生時代の遺構・遺物を包摂し、歴代の天皇の行幸の地となる吉野宮や吉野離宮の遺構が埋蔵されている。また、吉野はわが国の文学史においても特筆すべき土地で、日本の長歌の隆盛や叙景歌が始まった地と考えてよい。

こうしたことから、宮滝遺跡はその重層する遺構の解明を図り、正確に後世に継承し、多くの人々がこれらに触れることができる環境の創出が強く希求される。

吉野町としては、これらの周辺の歴史的文化的遺産や良好な自然環境を一体的に保全するとともに、吉野の歴史的・文化的環境を蘇らせる拠点として、宮滝遺跡の保存整備を期す。

（『吉野万葉整備活用計画基本構想』をもとに作成）

吉野万葉整備活用事業の考え方

1. 宮滝遺跡は、貴重な文化財として保護・継承すべき遺跡である。
2. 宮滝遺跡は、日本の歴史を体得するうえで重要な遺跡のため、多くの方がその価値を感じられるようにする。
3. 宮滝遺跡は周辺の景観や古跡とともに保存と活用が図られるべきである。
4. 宮滝遺跡が、地域の歴史に根ざした地域文化隆盛の拠点となることを目指す。
5. 宮滝遺跡が、吉野を訪れる人たちや町民の憩いの場となることを目指す。

（『吉野万葉整備活用計画基本構想』をもとに作成）

今後の事業計画（予定）

令和元年度　整備基本計画策定
どんな公園にしていくか、活用・保存の方針を決めます。

令和2年度　整備基本設計策定
整備後の公園の姿などを、おおよその設計図でまとめます。

令和3年度　整備実施設計策定
公園の姿を決定し、整備工事用の設計図をつくります。

令和4年度～　工事着手
公園にしていく工事をはじめます。

吉野離宮と宮滝遺跡に関する主な出来事（年表）

時期	内容
斉明天皇２ (656) 年	斉明天皇、吉野宮をつくる
斉明天皇５ (659) 年	斉明天皇、吉野宮行幸
天智天皇10 (671) 年	大海人皇子、吉野宮に入る
天武天皇元 (672) 年	大海人皇子、吉野を発ち壬申の乱を起こす
天武天皇８ (679) 年	天武天皇ら、吉野宮で盟約を行う
持統天皇３ (689) 年 ～同 11 (697) 年	持統天皇、吉野宮行幸を 30 回以上行う
大宝元 (701) 年	文武天皇、吉野離宮行幸 持統太上天皇、吉野離宮行幸
大宝２ (702) 年	文武天皇、吉野離宮行幸
養老７ (723) 年	元正天皇、芳野宮行幸
神亀元 (724) 年	聖武天皇、芳野宮行幸
天平８ (736) 年	聖武天皇、芳野離宮行幸
（時は流れて…）	
明治 20 年頃？	宮滝で遺物が採取され、遺跡が認識される
昭和２ (1927) 年	吉野宮所在地をめぐり論争が起こる
昭和５ (1930) 年 ～同13 (1938) 年	奈良県史跡名勝天然記念物調査会 末永雅雄氏により、宮滝遺跡第１次発掘調査が行われる
昭和 32 (1957) 年	宮滝遺跡の一部が国史跡に指定される
昭和 58 (1983) 年	吉野町、史跡宮滝遺跡公有化事業を開始
平成 26 (2014) 年	『吉野万葉整備活用計画基本構想』策定
平成 27 (2015) 年	吉野町、整備に向けた発掘調査を開始

宮滝までの各地からのアクセス

近鉄大和上市駅から宮滝までの地図

編集・発行：吉野町　　発行年：令和 元年　　月　　お問い合わせ先：吉野町文化観光交流課
〒639-3192 奈良県吉野郡吉野町上市80-1　電話：0746-32-3081　fax：0746-32-8855

吉野歴史資料館HP内で宮滝遺跡をご紹介しています。本紙と併せてご覧ください。（QRコード）
吉野歴史資料館HP：http://www.town.yoshino.nara.jp/about/shisetsu/dentou/rekishishiryokan.html

※本リーフレットの作成および本事業の実施にあたっては、文化庁及び奈良県からの補助金を受けています。

壬申の乱と『万葉集』の世界を今に伝える吉野宮跡・宮滝遺跡

土に覆われていたその姿を、発掘調査が明らかにしました

万葉の世界がのこる宮滝

宮滝遺跡や吉野宮って何？

宮滝遺跡とは―

吉野宮の跡とされる遺跡です。江戸時代から研究がはじまり、昭和5年から今日まで70次におよぶ発掘調査が行われてきました。その結果、吉野宮が一度大きく造りなおされたとみられることや、同地で縄文時代から人々の営みがあったことなどがわかってきています。

吉野宮とは―

1300年前の飛鳥～奈良時代頃、吉野に置かれた離宮の名前です。古代日本最大の内乱といわれる”壬申の乱”はじまりの場所であるほか、持統天皇や聖武天皇がたびたび行幸されたことで知られています。

また、『万葉集』にも多く取り上げられた場所でした。
万葉人は吉野宮を”瀧の都”や”山の神や川の神がお仕えする”と称え、大伴旅人は大宰府に行ってなお、吉野を思う歌を詠んでいます。

令和元年現在では、このように整備する構想です。

発掘調査の成果をもとに、どのように整備していくのかを、これから検討していきます。

万葉をもっと感じられる場所へ ―

なぜ調査をしたの？
調査をした場所はどうなるの？

吉野町では宮滝遺跡の一部を整備するため、平成30年度まで発掘調査を行ってきました。その結果、整備予定地には整然と建ち並ぶ建物群や大型建物（約25m×10m）が奈良時代頃にあったことが分かりました。離宮の中心部を確認できたものと考えられます。この成果をふまえて宮滝遺跡をどう整備するか、これから計画や設計図をつくっていきます。

壬申の乱や『万葉集』の世界って、
何が残っているの？

吉野町には、壬申の乱をおこした大海人皇子にまつわる伝説や神事（皇子が追っ手から隠れた場所、国栖奏など）が大切に伝えられています。また、宮滝周辺には『万葉集』に登場する地名（象山や三船山など）も残ります。こうした宮滝周辺の伝説・神事・景色などを活かし、古代を体感できるような場所にしていきたいと考えています。

全体はこんなイメージ

大型の建物はこんなイメージ